



昭和館キャラクター
カスコちゃん

見学者からの声



壁新聞の紹介 (千葉市立検見川小学校の児童のみなさん)

昭和館見学後に作成された壁新聞が、昭和館に届きました。昭和時代の人々の生活が大変わかりやすく、個性豊かに表現されておりました。昭和館では、1階ホールに掲示し、来館された方々に読んでいただいたところ、たいへん好評でした。

検見川小のみなさん、どうもありがとうございました。

画面が新しくなりました!(昭和館懐かしのニュースシアター)

上映開始から9年目を迎え、回数も間もなく390週になります。昭和10年頃から30年頃に映画館で上映されたニュース映画を毎週4作品ずつ放映。当時を懐かしく思われる方など、多くの人に楽しんでいただいております。

3月末に画面(モニター)とその周辺をリニューアル。以前よりも大きな画面で、鮮やかな映像をご覧いただけるようになりました。



小・中学生 昭和館見学 作文コンクール



平成21年度も第8回コンクールを予定しております。

予告

高校生 ポスターコンクール

平成20年度に第1回昭和館高校生ポスターコンクールを行い、高校生の皆さんから優れた作品の応募をいただきました。審査の結果、優秀賞3名、佳作3名の6名の方が入賞されました。おめでとうございます。入賞作品は館内に展示して来館者に公開していく予定です。

平成21年度も第2回コンクールを予定しております。

募集案内が決まりましたらお知らせいたします。ホームページにも掲載します。奮ってご参加ください。

巡回特別企画展

「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」

開催地	会期	会場
青森県	平成21年9月19日(土)~27日(日)	青森市民美術展示館
静岡県	平成21年11月21日(土)~29日(日)	静岡市民ギャラリー

毎年2カ所で巡回特別企画展を開催しています。当館所蔵の実物資料から開催地に関するものを中心に、厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真を展示。母や子の様々な思いや労苦、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介します。今年は青森県と静岡県を巡回します。

本誌を読まれたご感想、当館へのご意見、実際に見学された際のご感想等を下記にお送りください。今後の編集と、館の運営の参考にさせていただきます。



〈お問い合わせ先〉
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 昭和館 総務部
TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
toiawase@showakan.go.jp

<http://www.showakan.go.jp>



応募券

左の応募券を切り取り、はがきに貼って、昭和館 総務部までご郵送ください。ビデオ・DVD「ショーコちゃんの昭和館を見よう!」を学校にお送りいたします。

開館10周年 総入場者 240万人を超える



振る舞い餅

平成21年3月28日に開館10周年を迎えました。昭和館は戦中・戦後の国民生活の労苦を後世に伝える国立施設として平成11年3月28日に開館。以来10年間に小・中学生、高校生をはじめとして、240万人以上の方が来館されました。当日は、2階広場で振る舞い餅、紙芝居などのイベントを行い、多くの来館者の皆様と共にお祝いをしました。常設展示室入場者には粗品を謹呈しました。



梅田佳声さんの紙芝居

小学生・中学生・高校生の更なる学習を支援

予告

常設展示室をリニューアルします(7月1日 open)

体験学習や体感展示を取り入れ、理解を深める工夫をします。

- ①第4ブース「銃後の備えと空襲」：防空に対する戦時中の人々の苦勞を学ぼう!
○「警戒警報と空襲警報」「灯火管制」の掛け絵展示
警戒警報と空襲警報の対応の違いや、サイレンの違い、平常時・警報時の灯火管制の様子を学べるようになります。
○実寸大の防空壕
ジオラマに入って、防空壕の狭さや怖さを体験できます。
- ②体験ひろばの「調べてみよう」：パソコンを使って学ぼう!
○現在の展示資料の他、過去に展示した資料についても調べることが可能になります。
○昭和館所蔵のはがきやポスターもより多くの資料が閲覧できるようになります。
- ③6階の廊下には、「昭和館ギャラリー」を設置
○昭和館所蔵の版画や絵画資料を定期的に入れ替え、公開します。



実寸大の防空壕

(6月15日~30日は、常設展示室は休室となります。)

昭和館と学校をつなぐ広報誌

昭和館 だより

第12号

平成21年5月15日発行

ワーナー・ビショフ写真展『Japon』より
 ~新しい日本と永遠なるもの 1951-52年~
 (平成21年2月28日~4月19日)



昭和天皇のご到着を待つ子どもたち 広島駅付近 1951年10月
 ©Werner Bischof Estate / Magnum Photos

スイス・チューリッヒ出身のカメラマン、ワーナー・ビショフ(1916-1954)は昭和26年(1951)7月に来日、翌年まで日本で過ごし、28年には日本についての写真集を手がけていました。しかし29年5月16日、ペルーでの撮影旅行中、アンデスの谷間に転落し亡くなり、写真集『Japon』は彼の没後に刊行されています。



本展では写真家、ジャーナリストとして来日した彼が、戦後の混乱期が過ぎ、新しい時代に向かおうとしている様々な日本を捉えた作品を紹介しました。なお『Japon』に掲載された作品の他、滞在中に撮影した未発表作品の中から厳選した60点と併せ、ビショフ愛用のカメラや日本についてのレポート等も出品いたしました。

開館10周年記念 特別企画展

映像と写真・雑誌にみる戦前から戦後の日本
 (平成21年4月25日~5月10日)



戦前の横浜市電
 (横浜市桜木町駅前/石川光陽撮影)

昭和館は開館以来、戦中戦後の国民生活に関する映像・写真・図書雑誌資料を多数収集し、特別企画展や「昭和の日」前後の特別上映会、当館1階ロビーで開催している「資料公開コーナー」などにおいてこれらの資料の一部を公開してきました。

本展は「昭和の日」特別企画展として、近年新たに入手した戦前の子供向けニュース映画と戦後の三大イベントともいえる「ご成婚」「東京オリンピック」「大阪万国博覧会」のニュース映画、戦中戦後をテーマとした劇場映画(アニメ映画)などの上映、1階の「資料公開コーナー」においてこれまでに展示してきた写真や雑誌資料を通じ、戦前から戦後にかけての日本の様子や人々の姿を紹介しました。



『少女倶楽部』『少年倶楽部』『婦人倶楽部』

記された想い

~手紙と日記に見る戦中・戦後~ (仮称)

平成21年7月25日~8月30日

予告

次回 特別企画展

戦地にいる兵士とその家族は、唯一の手段である手紙のやりとりにより近況を報告しあっていました。手紙を丹念に見ていくと、家族を思う気持ちだけでなく、手紙には書けない当時の情勢なども読み取ることができます。また、手紙以外にも絵日記や日記など、当時の状況を記した記録を通して、戦中・戦後の生活の様子や、人々の想いを明らかにしていきます。

ぶっくらぶ~蔵書紹介~

★★★★ 図書室より ★★★★★

開架本が増えました!

◆「戦時中の小学校の教科書」いろいろ◆
 戦時中の小学校は国民学校という名で、児童は「少国民」と呼ばれました。国のためにつくす人間を育てるための教育が行われました。

写真
 左上『初等科修身 四』(小学4年生修身の教科書)
 左中『コトバノケイコ ー』(小学1年生国語の教科書)
 左下『ウタノエホン 上』(小学1年生音楽の教科書)
 右の写真はそれぞれ開いたもの



昭和館キャラクター
 ショーコちゃん

図書室の開架スペースに書架が増設され、自由に閲覧できる資料が増えました! 当時の街並みや子どもたちの生活が一目でわかる写真集や、絵本、漫画なども楽しめます。また、児童書も少しずつ増えています。

毎年7月には『戦争について学ぶ本』や『戦時中の生活について学ぶ本』などを紹介した「夏休みリスト」を発行しています。詳細は、昭和館のHPでご覧いただけますので、アクセスしてみてください。

